

社会福祉法人松戸市社会福祉協議会  
令和3年度第2回松戸市居場所づくり全体会議要旨

1 日 時 令和3年 11月 12日(金) 13時 30分～14時 45分

2 会 場 松戸市社会福祉協議会 第1・2ボランティア室

### 3 議 事

(1) 報 告

①各地区の進捗状況報告について

(2) 議 題

①「まつど DE つながるステーション」の承認について

②「まつど DE つながるステーション」活動助成金交付要綱の改正について

(3) その他

### 4 出席者

(1) 出席委員(9名)

副会長	恩田 忠治	松戸市町会・自治会連合会 会長
委員	安藤 正己	松戸市町会・自治会連合会 副会長
委員	梶原 栄治	松戸市民生児童委員協議会 副会長
委員	阿部 剛	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	松村 大地	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	伊東 朱美	松戸市総合政策部 部長
委員	上野 真一	松戸市市民部 部長
委員	笹川 昭弘	松戸市健康福祉部 部長
委員	小川 早苗	松戸市社会福祉協議会 副会長

(2) 出席機関(8名)

松戸市総合政策部地域共生課、特定非営利活動法人まつど NPO 協議会

(3) 事務局(8名)

松戸市社会福祉協議会

### 5 議題内容

#### ■各地区の進捗報告について

まつど NPO 協議会より、まつど DE つながるステーション創出に向けたアプローチの経過として、各地区のニーズ・課題、今後の方針や取り組みについて報告。

報告を受け、各委員からは以下の通りご意見をいただいた。

#### 各委員よりいただいたご質問の概要

・具体的に挨拶はどこに誰にしたのか。

⇒【回答】地域活動をされている方々を対象に実施。具体的には、地区長、地区社協の会長、民児協の会長など少なくとも各地区 1 名以上の方に挨拶している。そこで要望があれば、対象を広げている。

・ニーズ調査はどのような形で実施しているのか。

⇒【回答】挨拶の際に地域の課題についてのお話などをお聞きしている。さらに必要であれば、地区ごとに異なる対象に実施している。

・実行委員会の構成メンバーについてはどのような進め方をしようとしているのか。

⇒【回答】実行委員会が立ち上がった地区では、地域活動を進めてこられた方々にご相談し、実行委員会の検討会を開催。検討会に参加したほとんどの方が実行委員会にも参加しており、約 12 名となっている。

・「既存の地域活動との差別化」「既存の活動との違いを明確化する」という言葉使われているが、差別化・明確化は同一の意味合いで使われているか。

⇒【回答】同様の意味合いで使っており、差別化の部分を明確化と読み替えていただいても、意味上の違いはない。

・今後の方針について、ニーズ調査あるいは地区長のご挨拶など、どの段階でどこまでのレベルの方針を決めるのか。

⇒【回答】地域によってはヒアリングをしている途中で、地域のみなさまとの話し合いの場まで設けられていない地域がある。そういった地域に関しては、担当者を中心に検討している。地域の方での話し合いが行われている地区は、話し合いの結果をまとめている。

・多くの地区で「既存の取組との違いがわからない」という意見が出ているようだが、今後、既存の活動を含めて考えるのか、それとも新たな活動とするのか。方向性についてはどのように考えているか。

⇒【回答】今年度の方針としては、新しく地域の居場所を立ち上げるための動きを支援していくことが主な方針となっている。既存の活動との違いがわかりづらい点に対しては、まず各地区ごとの既存の活動をヒアリングしたうえで、どこが似ているのか、混乱しやすくなっているのか、それぞれの地区に合わせて説明する方向になると思う。

・共生社会について行政が考えていること、市民が考えていることがそれぞれあると思うが、地域では新たな居場所がほしいと思っているのかどうなのか。現状として居場所づくりを進めるのは無理があると感じるのか、それとも、もう少し地域に活動があった方が良いと思うのか、どのような印象を受けたか教えてほしい。

⇒【回答】いろいろな居場所の活動や、個別の活動に関しても積極的に取り組んでいる方が多い。ただ、活動がバラバラに存在しており、地域の中で全体を客観的に見れていないように、いろいろな方にお話をお聞きした中で感じた。また、今の活動を継続することに手一杯で、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた難しさや、担い手の高齢化や不足が共通の課題としてあると感じている。この課題の解消ができるような取り組みができれば、この事業への価値を感じていただけるのかなと思う。

・まつど NPO 協議会が関わっている事業や担い手の可能性について感じていることがあれば是非共有していただきたい。

⇒【回答】担い手の発掘に関しては既存の取組とはまた違った角度から多面的なアプローチが必要だと思っている。まつど市民活動サポートセンターで行っている「まつど地域活躍塾」という通年の講座では、50代前後の方々を対象に、定年後のライフプランの一つとして地域での活動に一步を踏み出す方向けの講座を実施。結果、50代はじめ20～30代や大学生の方にもご参加いただいている。そういった方々のニーズや取り組みたいことを丁寧にお聞きした上で、地域の活動とのマッチングを進めていくことが担い手不足を解消することに繋がると思っている。

#### 各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

- ・居場所づくりを進める時にニーズや課題の抽出が一番重要なところだろうと思う。コロナ禍でいろいろな制限もあったかと思うが、広く活動を知ってもらおうようなこともあわせてやる必要があると感じる。これから実行委員会を立ち上げる段階だと思うが、是非広くいろんな人を巻き込んで進めていただきたい。
- ・地域共生の取組について既存の活動の中で感じていた足りない部分や課題を、この居場所づくり事業で実現できるのではないかという考えを持った方が地域のキーパーソンとなっている場合には、前向きに進んでいるのではないかと感じる。そういった方が不在の場合だと、どうしても一步踏み出すところまで行っていないと思う。
- ・地域のキーパーソンの方は忙しく、担い手の確保が課題である。これまで地域活動をしたことがなかった方々とどう繋がっていくのかがポイントだと思う。

#### ■「まつど DE つながるステーション」の承認について

松戸市地域共生課より、以下4点について説明。異議なしとして承認をいただいた。

- (1)まつど DE つながるステーションの申請期限について、10月末から12月末に変更
- (2)申請期限の延長に伴い、まつど DE つながるステーションの承認について、第2回全体会議から第3回全体会議に変更
- (3)まつど DE つながるステーション活動助成金における令和3年度助成金額について、20万円から12万円に変更
- (4)第3回全体会議の日程と内容の変更

#### ■「まつど DE つながるステーション」活動助成金交付要綱の改正について

事務局より、「まつど DE つながるステーション」活動助成金交付要綱の改正について説明。条文の文言についてご指摘があり、確認して修正することについて、異議なしとして承認をいただいた。

## 6 その他

- ・今後の予定…令和3年度第3回松戸市居場所づくり全体会議の開催

日時：令和4年1月13日(木)10時00分～